

2009年4月20日

各 位

熊本県熊本市南熊本三丁目14番3号
株式会社トランスジェニック
代表取締役社長 山村研一
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 IR・広報担当 森田貴子
電話番号 078-306-0590

武田薬品工業株式会社に遺伝子破壊マウスの使用権を供与

株式会社トランスジェニック（代表取締役社長：山村研一、熊本県熊本市）は、当社が権利を保有する遺伝子破壊マウスについて、武田薬品工業株式会社と使用権許諾契約を締結しましたので、お知らせいたします。

本契約は、当社が大規模・網羅的に創製した遺伝子破壊マウスのうち、特定の1系統（以下本系統）を対象としています。本契約により、当社は使用権供与の対価を受け取ります。

当社は、山村研一（現在、当社代表取締役社長）らにより発明された遺伝子改変マウスの効率的な作製方法「可変型遺伝子トラップ法」の技術移転を受け、2000年4月に遺伝子破壊マウス事業を開始しました。その後、当社にて大規模・網羅的に遺伝子破壊マウス・ES細胞を作製しました。

現在、これらを「TG Resource Bank[®]」として公開し、個々の系統について使用権を供与するビジネスを推進しています。今回の契約は、この成果の1つであります。

可変型遺伝子トラップ法を用いて創製した遺伝子破壊マウスは、特定の遺伝子機能についてマウス個体を用いて解析することが出来る非常に有用なツールです。さらに、破壊した遺伝子の位置にヒト遺伝子や点突然変異などを挿入することができることが特徴であり、多くの製薬企業が手掛けているバイオ医薬品の有効性評価などにも利用できる点で、非常に優れています。

当社は、今後も当社が保有する遺伝子破壊マウスの基礎研究のみならず創薬研究開発における有用性を認知させるとともに、本ビジネスを積極的に推進してまいります。

なお、現段階においては、本件が当社の業績に及ぼす影響は軽微であります。重大な影響を与えることが判明した場合には速やかにお知らせいたします。

以上

ご参考：

*TG Resource Bank[®]

当社が保有する生命資源ライブラリーの呼称。

可変型遺伝子トラップ法を用いて作製した遺伝子破壊マウス約700系統・遺伝子破壊ES細胞約2000クローンの情報を、2006年9月より当社ウェブサイト上に公開しています。